

# 日本語学習者による多義動詞を中心語とするコロケーションの習得

大神, 智春

<https://hdl.handle.net/2324/1959200>

---

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (芸術工学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名：大神 智春

論文題名：日本語学習者による多義動詞を中心語とするコロケーションの習得

区 分：乙

## 論文内容の要旨

### 1. 研究の背景及び目的

日本語教育においては中級レベル以上になるとコロケーションの理解と使用が重要な学習項目の1つとなっている。しかし、日本語教育では、母語転移の観点からのコロケーション習得研究は行われているが、その他の観点からの研究はまだ十分に行われているとは言えない。本研究では、1つの多義動詞で形成されるコロケーションの習得に焦点を当て、多義動詞「とる」で形成されるコロケーションを通して、上級学習者がコロケーション習得においてどのような中間言語を構築しているか明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究課題・方法

- (1) 日本人大学生が抱いているプロトタイプを調査し、結果を本研究における日本語母語話者のプロトタイプと位置付ける。
- (2) 多義語のコロケーション習得における中間言語について以下の点を明らかにする。その際、理論的アプローチとして、概念形成理論（田中・深谷 1998）の「典型化」「一般化」「差異化」の枠組みを援用する。補助概念としては「語彙知識の広さ」「語彙知識の深さ」「語彙のネットワーク知識」を用いる。
  - a) 「典型化」：学習者が考える「とる」のプロトタイプはどのようなものであるか。
  - b) 「一般化」：学習者が「とる」の多義性をどの程度習得し各語義で形成されるコロケーションをどの程度理解しているか。「語彙知識の深さ」及び「語彙知識の広さ」の視点を取り入れ分析する。
  - c) 「差異化」：「とる」と類義語との使い分けがどの程度できるか。「語彙のネットワーク知識」及び「語義知識の広さ」の視点を取り入れ分析する。

被験者は、九州大学に所属する留学生で、中国語母語話者（CNS）と韓国語母語話者（KNS）を対象にした。尚、調査に当たっては、「とる」の語義を9に区分し、認知言語学的視点から各語義の意味関係を整理した。

### 3. 結果

- (1) JNSは「とる」のプロトタイプを語義1（把握）だと認識していることが明らかになった。また、JNSは「とる」の意味がプロトタイプである語義1（把握）からどの程度乖離していると感じられるか、そして共起名詞がどの程度具体的か抽象的かでプロトタイプから各語義までの位置を判断していることが明らかになった。
- (2)
  - a) 「典型化」については、CNS、KNSともに「とる」の「最も基本的な語義」を語義2（獲得）だと考えていることが明らかになった。使用頻度の高い共起語についても語義2（獲得）に属する

ものを多用していた。学習者は上級レベルではまだプロトタイプを作り上げてはおらず、教科書や授業で得た知識を基に日常生活で使用しつつ一般化した「学習基本義」を中心に据えていると考えられる。習得が進むと「学習基本義」も様々な事例の1つとして取り込みながらプロトタイプを形成していくと考えられる。

b) 「一般化」については、CNSもKNSも用法2（獲得）を中心とし、用法2（獲得）だけではなく用法1（把握）、6（生産）、8（占有）、7（測定）、3（離脱）の理解を進めていることが明らかになった。本研究より「語彙知識の深さ」においては上級レベルになると習得が進むことが明らかになった。ただし、学習者が知っている共起語は量的に限られており、「語彙知識の広さ」の習得については発展途上であることが観察された。尚、用法によってはCNSとKNSとで理解度に相違が見られるものも観察されたことから、母語知識は個々のコロケーションの習得速度に影響を与えると考えられる。

c) 「差異化」については、CNS・KNSとも意味領域が明確に区別できるタイプの類義語は習得しやすいが、意味領域が重なる中で、認知的要素の違い（例：「操作・処理」性が強いか「状態」性が強いか）によって使い分けるタイプの類義語は習得が困難であることが明らかになった。また、学習者は「とる」と類義語が各々持つ共起語は習得しているが、「とる」と類義語の共起語の範囲を十分に習得していないことから、「語彙のネットワーク知識」の広がりには発展途上であることが明らかになった。「語彙知識の広さ」としては、比較的広く共起語の習得が進んでいる用法、部分的な共起語のみの習得が進んでいる用法、全体的に習得が進んでいない用法の3者が混在していることが明らかになった。

全体としては、学習者は多義性についての習得は進むがそれは限られた用例をもとにしていてと考えられる。共起語として使用できる語の範囲は大きくは広がっておらず、類義語を産出することはできるが使い分けについては境界線が不明瞭な状態であると言える。各コロケーションの用例を中級レベルで「点」として習得し、上級レベルでは習得した知識を「面」として広げつつある移行期であると言える。

#### 4. 今後の課題

今後、縦断的研究を行うことで学習者の中間言語体系の発達の側面を明らかにする必要がある。被験者については、非漢字圏の学習者も対象に調査を行いCNS・KNSと比較することで学習者の中間言語体系をより明確に解明していきたい。

Name : Chiharu Oga

Title : The Acquisition of Some Collocations within the Polysemous Verb  
Constructions by Japanese Language Learners.

区分 : 乙

### Abstract

This study aims to examine how the interlanguage is formed by Chinese and Korean learners of Japanese in the process of the acquisition of collocations with a polysemous verb *toru* from the perspective of the theory of Concept Formation: typicalization, generalization and differentiation:

- 1) what is the prototypical denotative meaning of the verb *toru* for native speakers of Japanese,
- 2) what is the prototypical denotative meaning of the verb *toru* for learners of Japanese (typicalization),
- 3) to what extent are learners of Japanese able to use apart the denotative meanings of the verb *toru* (generalization),
- 4) to what extent are learners of Japanese able to distinguish the collocations with the verb *toru* from those of its synonyms (differentiation).

We have found the following results:

- 1) The prototypical denotative meaning of the verb *toru* for native speakers of Japanese is "to take/hold on", and they relate each extended meanings with the semantic distance from their prototypical meaning and also relate in semantic concreteness and abstraction;
- 2) The learners have not yet chosen the correct prototypical meanings but chose their own prototypical meanings on the basis of the knowledge that they learned from textbooks and daily life;
- 3) Although the learners acquire a certain amount of the polysemies, the range of words they could use in collocations with the verb is very limited;
- 4) The learners can output synonyms of the verb *toru*, but they still have not acquired how to use the correct synonyms to suit different situations.

Overall, while the intermediate learners acquire the fragmentary network of collocations with the verb *toru*, the advanced learners are in the stages of acquiring the whole network of collocations.